

尚綱大学

教育情報及び財務情報の公表について

学校法人尚綱学園は、公共性の高い法人としての社会的責任を踏まえ、情報公開に取り組んでいます。当学園に対する皆様方のご理解とご協力を得ることを目的として、下記の基本情報を公開いたします。

1. 教育研究上の基礎的な情報

- (1) 学部、学科及びコースの名称
- (2) 各学部、学科の教育研究上の目的
- (3) 専任教員数等
- (4) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境
- (5) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用
- (6) 教材購入費
- (7) 校舎等の耐震化率
- (8) 寄附行為
- (9) 役員名簿
- (10) 外部資金獲得状況

2. 修学上の情報等

- (1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績
- (2) 3つのポリシー
 - ① 入学者受入方針（アドミSSION・ポリシー）
 - ② 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）
 - ③ 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
- (3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数
- (4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数、中退率及び留年者数の推移
- (5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数
- (6) 入学者（出身校県別）
- (7) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他
- (8) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画
- (9) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準
- (10) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援
- (11) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

3. 財務情報

- (1) 令和2年度財産目録
- (2) 令和2年度貸借対照表
- (3) 令和2年度資金収支計算書
- (4) 令和2年度事業活動収支計算書
- (5) 令和2年度事業報告書
- (6) 監事の監査報告書
- (7) 令和2年度決算の概要報告
- (8) 令和3年度の学生生徒数の状況

1. 教育研究上の基礎的な情報

(1) 学部、学科及びコースの名称

学部名	学科名	コース名	
現代文化学部	文化コミュニケーション学科	1～4年生	
文化言語学部	文化言語学科	募集停止	日本語日本文学コース 現代コミュニケーションコース
生活科学部	栄養科学科	1～4年生	

(2) 各学部、学科の教育研究上の目的

<現代文化学部>

高度なコミュニケーション能力を基礎に、高度情報化とグローバル化が進行する現代日本社会及び多様な表現文化について、広い視野から調査・分析する能力を修得し、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる女性を育成することを目的とする。

<文化言語学部>

現代及び未来を厳しく見据え、文化と言語に力点を置いた教育と研究を展開し、将来の日本社会が必要とする豊かな国際的・文化的感覚を備え、国内外で広く正しく活用し得る言語力を身につけた人材の養成を目的とする。

<生活科学部>

人間の健康と食のあり方を広い視野から深く教育研究することにより、食・栄養に関する先進的な専門知識と実践技術を身につけ、自律性・対話力・考察力を兼ね備えた専門職業人として、栄養教育、栄養管理、食育等を通して、広く社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

(3) 専任教員数等

学部ごとの専任教員数（令和3年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	学科名	教授		准教授		講師		助教		計		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
現代文化学部	文化コミュニケーション学科	7	2	2	4	1	0	0	0	10	6	16
文化言語学部	文化言語学科	1	0	0	0	0	0	1	0	2	0	2
生活科学部	栄養科学科	4	2	2	4	0	2	1	1	7	9	16
計		12	4	4	8	1	2	2	1	19	15	34

法令上必要な専任教員数（令和3年5月1日現在）

（単位 人）

大学設置基準に定める専任教員数（令和8年6月1日現在）
 （単位：人）

学部名	専任教員数					設置基準で定める最低専任教員数	
	教授	准教授	講師	助教	計	別表第1	別表第2
現代文化学部兼文化言語学部	10	6	1	1	18	8 (4)	10 (5)
生活科学部	6	6	2	2	16	10 (5)	
計	16	12	3	3	34	28 (14)	
備考	1. 「設置基準で定める専任教員数」欄の「別表第1」は、大学設置基準第13条別表第1「学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数」の「イ」に基づく教員数を表す。 2. 「設置基準で定める専任教員数」欄の「別表第2」は、大学設置基準第13条別表第2「大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数」の備考2に基づく教員数を表す。 3. 「設置基準で定める専任教員数」欄に示す教員数の（ ）内は、大学設置基準第13条別表第1のイの備考第1号に定める教授数（専任教員数の半数以上）を表す。						

専任教員の学部ごとの年齢別の構成（令和3年5月1日現在）

（単位 人）

学部名	職位	70歳以上	60歳～69歳	50歳～59歳	40歳～49歳	30歳～39歳	29歳以下	計
現代文化学部	教授	0	3	4	2	0	0	9
	准教授	0	0	0	6	0	0	6
	講師	0	0	1	0	0	0	1
	助教	0	0	0	0	0	0	0
計		0	3	5	8	0	0	16
学部名	職位	70歳以上	60歳～69歳	50歳～59歳	40歳～49歳	30歳～39歳	29歳以下	計
文化言語学部	教授	0	1	0	0	0	0	1
	准教授	0	0	0	0	0	0	0
	講師	0	0	0	0	0	0	0
	助教	0	0	0	0	1	0	1
計		0	1	0	0	1	0	2

学部名	職 位	70 歳 以上	60 歳～ 69 歳	50 歳～ 59 歳	40 歳～ 49 歳	30 歳～ 39 歳	29 歳 以下	計
生活科学部	教授	0	5	0	1	0	0	6
	准教授	0	3	1	2	0	0	6
	講師	0	1	0	1	0	0	2
	助教	0	0	0	1	1	0	2
計		0	9	1	5	1	0	16

教員一人当たり学生数（令和 3 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学部名	専任教員数 〔助手を除く〕	収容定員	在籍学生数					教員一人当たり 学生数	
			1 年	2 年	3 年	4 年	計	収容定員 基準	在籍学生 数基準
現代文化学部	16	300	55	44	39	31	169	18.8	10.6
文化言語学部	2	－	－	－	－	2	2	－	1
生活科学部	16	300	70	80	86	78	314	18.8	19.6
合 計	34	600	125	124	125	111	485	17.6	14.3

収容定員充足率（令和 3 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学部名	収容定員	在籍学生数					収容定員充足率 (%)
		1 年	2 年	3 年	4 年	計	
現代文化学部	300	55	44	39	31	169	56.3
文化言語学部	－	－	－	－	2	2	－
生活科学部	300	70	80	86	78	314	104.7
合 計	600	125	124	125	111	485	80.8

専任教員と非常勤教員の比率（令和 3 年 5 月 1 日現在）

（単位 人）

学部名	専任教員数	専任教員 による担当 授業科目数	非常勤教員 による担当 授業科目数	専任と非常勤の 比率 (%)	
				専任	非常勤
現代文化学部	16	167	53	75.9	24.1
文化言語学部	2	16	3	84.2	15.8
生活科学部	16	91	38	70.5	29.5
計	34	274	94	74.5	25.5

(4) 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境

校地・校舎の概要

本学は熊本市及び菊陽町に九品寺と武蔵ヶ丘 2 つのキャンパスを有している。

九品寺キャンパスは熊本市の中心部に位置しており、学園本部、大学、短期大学部（総合生活学科、食物栄養学科）、高等学校及び中学校がある。九品寺キャンパスの校舎配置図は図 1 に、校舎の概要は表 1 に示すとおりである。

一方、武蔵ヶ丘キャンパスは熊本市中心部から車で 30 分程の熊本市北東部のベッドタウンに位置し、短期大学部（幼児教育学科）及び短期大学部附属こども園がある。キャンパスの周辺は閑静な住宅街と豊かな自然環境に囲まれており、また、キャンパスの中央には手入れの行き届いた庭園が配置され、学生の憩いの場となっている。武蔵ヶ丘キャンパスの校舎配置図は図 2 に、校舎の概要は表 2 に示すとおりである。

校地面積は 6,453 m²で大学設置基準上必要な面積（6,000 m²）の約 1.1 倍を確保している。

また、校舎面積は 10,450 m²で大学設置基準上必要な面積（7,437 m²）の約 1.4 倍を確保している。

運動場・体育施設

九品寺キャンパスには、敷地内に短期大学部や高等学校などの校舎があり平成 25 年 1 月にイベント等を行うことができる尚綱アリーナ（高等学校・中学校と共用）が完成した。

一方、武蔵ヶ丘キャンパスには体育館、運動場及びプールがある。体育館のメインアリーナはバスケットボールコートを 2 面とれる広さがあり、その他に卓球場や多目的ホール、部室棟などの設備がある。

課外活動の状況及びその施設

本学では、学生会を組織し、新入生歓迎会、学園祭、スポーツ大会などの学生による自治活動を行っている。これら学生会の活動は学生支援委員会並びに学生支援課で支援しており、年 2 回の学生役員会並びに学生総会には学生支援委員が陪席している。

また、課外活動への支援・指導は各クラブ顧問によって行われ、学生支援課が相談窓口を担っている。課外活動は、九品寺キャンパスで 15 団体（文芸部、中国語研究クラブ、韓国語サークル、SLC、献血サークル、茶の湯同好会（部）、食品研究サークル、ボランティアグループ「U」、和食文化サークル、軽音楽部、食ハピ、ハンドメイド研究会、写真同好会、創作同好会、野外活動サークル）、武蔵ヶ丘キャンパスで 4 団体（ダンス部、美術部、バスケット部、映画鑑賞サークル）があり、活発に活動している

課外活動施設については、九品寺キャンパスでは、クラブ室を 11 室設けており、クラブ室が無いサークルは学生ホールや教室を利用するか、学外に出向いて活動している。武蔵ヶ丘キャンパスでは、体育館 1 階部分に 10 室を設けている。

学生会は、学生総会、役員会等の運営を行い、九品寺キャンパスでは、同キャンパス内にある短大学生会と新入生歓迎行事、学園祭等の企画、運営、実施にあたっている。

休息を行う環境、その他の学習環境

	九品寺キャンパス	武蔵ヶ丘キャンパス
学生の休息のための施設・空間	学生ホール約 100 席 グローバルラウンジ約 30 席 ラーニングコモンズ約 40 席 自動販売機 6 台	短大部学生ホール約 100 席
保健室、カウンセリングルーム	保健室 養護教諭が常駐 ベッド数 3 床 車椅子 1 台 カウンセリングルーム	保健室 養護教諭が常駐 AED1 台 ベッド数 4 床 車椅子 1 台 カウンセリングルーム
食堂	学生食堂 営業時間 11:00～14:00 座席数約 200 席 自動販売機 2 台	学生食堂 営業時間 11:00～14:00 座席数約 220 席 自動販売機 2 台
売店など	コンビニエンスストア (生活彩家) 営業時間 7:00～19:00 コピー機 AED1 台	コンビニエンスストア (生活彩家) 営業時間 8:00～15:00 0 自動販売機 2 台 ATM (肥後銀行) 1 台 コピー機

図1 九品寺キャンパス校舎配置図

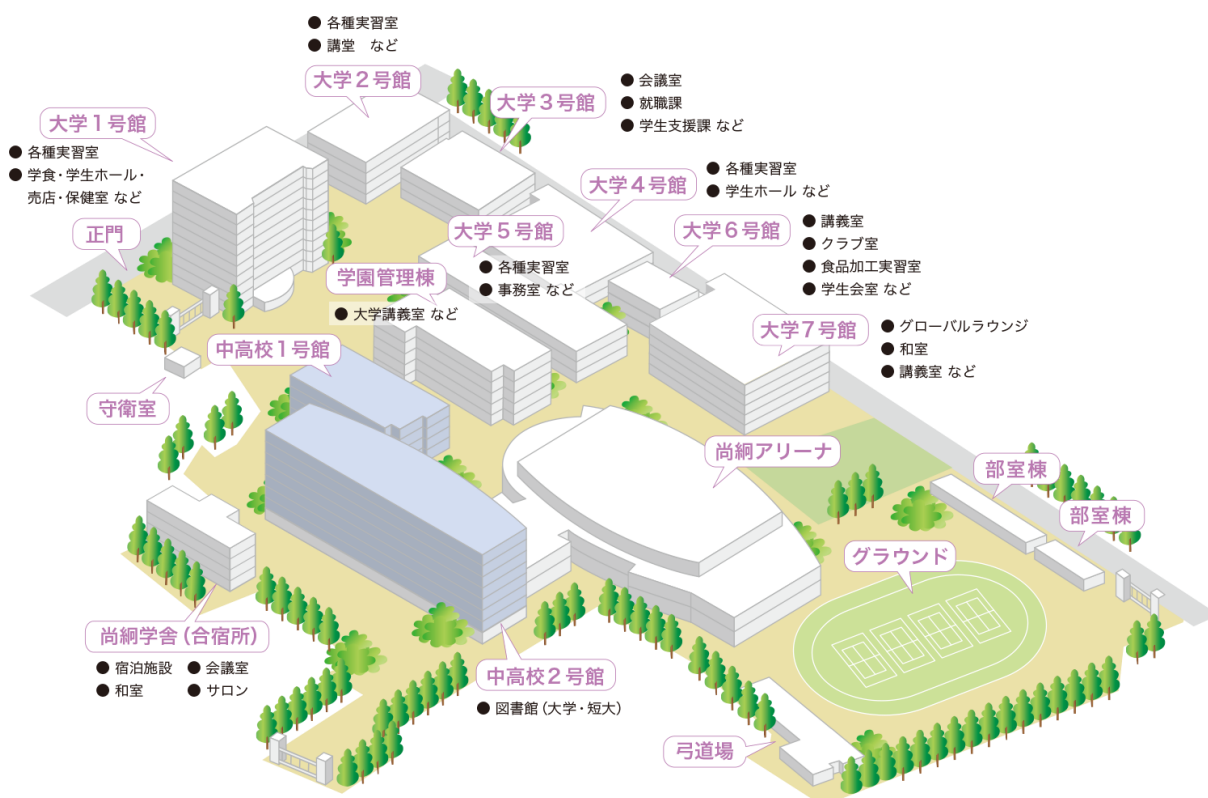


表1 九品寺キャンパス校舎概要

1	1号館	1F 学生食堂・コンビニエンスストア（生活彩家）、学生ホール 2F 大学事務局長室、1201号室、カウンセリング室、保健室、尚絅食育研究センター 3F 1301号室、1302号室、大会議室、小会議室 4F 栄養調理実習室、更衣室 5F 栄養教育実習室、リフレッシュルーム、卒業研究室 6F 臨床栄養実習室、食品加工・食品学実習室 7F 精密機器室、卒業研究室 8F 研究室 9F セミナー室、研究室 10F 大講義室										
2	2号館	1F 給食経営管理実習室、試食室 2F 共同実験室 3F 情報処理教室 4F 講堂										
3	3号館	BF 地下会議室 1F 入試センター、入試アドバイザー室、学生支援課、就職・進路支援センター、就職資料室 2F 3201号室、3202号室 3F 3301号室										
4	4号館	1F 第2調理実習室、学生ホール、尚絅サポートセンター 2F デザイン演習室、衣服実習室、研究室、ボランティア支援センター										
5	5号館	BF 卓球室、学生ロッカー室 1F 事務室、第3調理実習室 2F 学長室、大学企画室、5201号室、染色実習室、研究室、講師控室 3F 生化学・食品化学実習室、食品衛生・解剖生理実習室、研究室										
6	6号館	1F 食品加工実習室、学生会室、クラブ部室 2F 6201号室、6202号室、研究室										
7	7号館	1F クラブ室、ロッカー室、ラーニングコモンズ、グローバルラウンジ 2F 7201号室、学生ホール 3F 7301号室～7307号室、会議室A、会議室B 4F ミーティングルーム、研究室 5F 研究室										
8	学園管理棟	BF 会議室、和室 1F 学園事務局、理事長室、常務理事室、会議室 2F 管201号室 3F 管301号室、管302号室 4F 管401号室、管402号室 5F 管理棟5階ホール										
9	中高校1号館	中高校事務室、校長室、職員室他										
10	中高校2号館	1F 図書館本館（学修支援センター） 2F 中高校図書館 3F～8F 中高校教室他			11	尚絅学舎 （セミナーハウス）		12	尚絅アリーナ		13	正門
14	弓道場	15・16	部室棟		17	北門		18	南門		19	グラウンド

図2 武蔵ヶ丘キャンパス校舎配置図

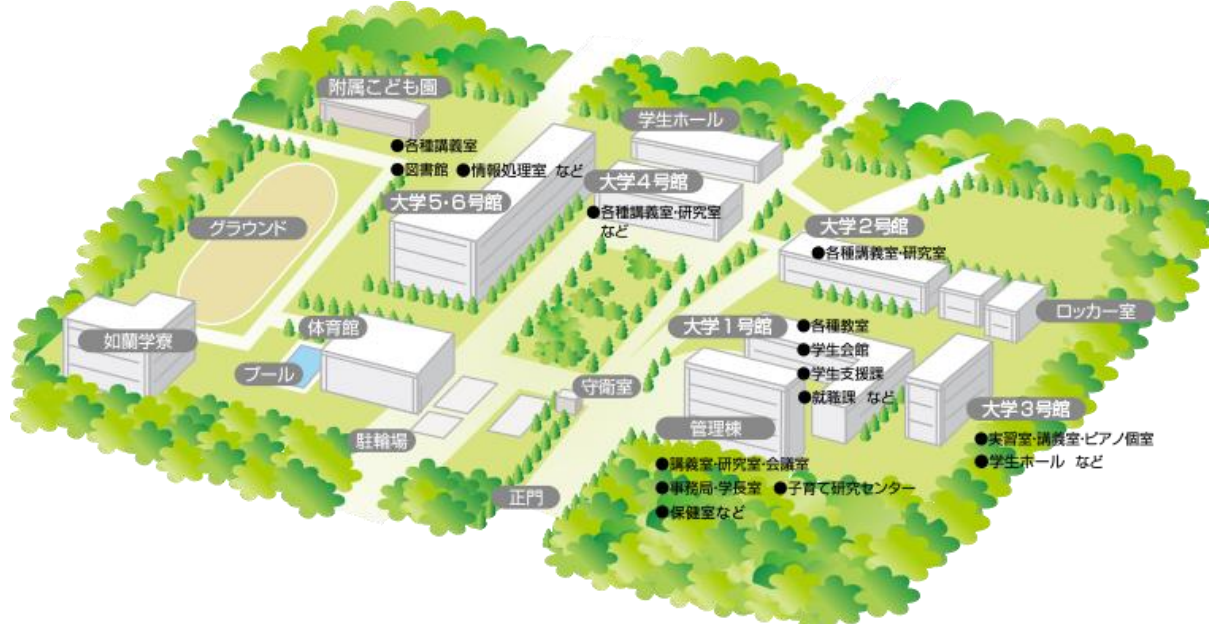


表2 武蔵ヶ丘キャンパス校舎概要

1	大学1号館	1F コンビニエンスストア(生活彩家)、コンビニ控室、図工教室、学生会室、学生支援課、就職課、学生ホール 2F ピアノ個室、音楽教室、研究室、リトミック室、講師控室					
2	大学2号館	1F 第1～第3講義室、実習指導室、研究室、雑誌閲覧室 2F ピアノ個室、第5講義室、パソコン自習室、研究室、視聴覚室					
3	大学3号館	1F 調理実習室 2F 第6講義室 3F ピアノ個室					
4	大学4号館	1F 第1～第4講義室 2F 研究室、学修支援センター、第6講義室、 3F 第7、第8講義室、研究室					
5	大学5・6号館	1F 第3演習室、第10～第12講義室、図書館書庫 2F 図書館分館 3F 情報処理教室、生物化学実験室、多目的室					
6	管理棟	1F 事務室、保健室、応接室 2F 講師控室、役員室、学長室、尚絅子育て研究センター、新学部設置準備室、地域連携推進センター、カウンセリング室 3F 研究室、卒論演習室 4F 会議室、研究室 5F 大講義室					
7	正門	8	守衛室	9	学生食堂 学生ホール、茶室	10	短大ロッカー室
11	駐輪場	12	体育館	13	プール	14	如蘭学寮
15	グラウンド	16	こども園園舎				

情報サービス施設

九品寺キャンパス、武蔵ヶ丘キャンパスともに情報処理教室が設置されている。座席数は九品寺キャンパスの情報処理教室が90席、武蔵ヶ丘キャンパスの情報処理教室が84席である。また、学生用パソコン2台の間に中間モニターを設置し、教員用パソコンから画面情報や資料などを表示させて、学生が講義内容を理解するのに役立てている。いずれのキャンパスの情報処理教室も可動式のパーティションを設置しているので、教室を分割して利用することも可能である。

情報処理教室は、授業のない時間帯には学生に開放しており、学生は自習室として利用することも可能である。

その他の情報サービス施設としては、九品寺キャンパスにおいては、就職資料室に3台、図書館に10台、4号館学生ホール10台、7号館学生ホール12台、グローバルラウンジ6台、ラーニングコモンズ8台のパソコンを学生用に設置している。また、武蔵ヶ丘キャンパスにおいては、パソコン自習室に18台、就職資料室に3台、図書館に10台、学生ホールに2台のパソコンを設置している。

図 書 館

「尚綱大学図書館」は、九品寺キャンパスの「本館」と武蔵ヶ丘キャンパスの「分館」からなる、大学及び短期大学部専用の図書館である。本館と分館の規模及び蔵書数を表3と表4に示す。

表3 図書館の規模

図書館の名称	面積 (㎡)			学生閲覧室の 座席数 (a)	学生収 容定員 (b)	収容定員に対 する座席数の 割合 (%) (a) / (b) × 100	備 考
	全体	閲覧 スペース (内数)	書庫 スペース (内数)				
尚綱大学図書館本館	1,246	713	223	82	920	8.9	現代文化学部・文化言語学部 300 名 生活科学部 300 名 短期大学部 320 名
尚綱大学図書館分館	977	233	718	100	300	33.3	短期大学部 300 名
計	2,223	946	941	182	1,220	14.9	

表4 図書館の蔵書数（令和3年5月1日現在）

図書館の名称	図書の冊数 (冊)		定期刊行物の種類		視聴覚資料の 所蔵数(点数)	電子ジャーナルの種類 (種類)
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内数)	内国書	外国書		
尚綱大学図書館本館	157,817	92,141	667	33	2,257	0
尚綱大学図書館分館	91,234	73,082	1,760	43	2,345	0
計	249,051	165,223	2,427	76	4,602	0

<アクセスマップ>

九品寺キャンパス



■尚絅大学・尚絅大学短期大学部	
現代文化学部：文化コミュニケーション学科	文化言語学部：文化言語学科
生活科学部：栄養科学科	短期大学部：総合生活学科、食物栄養学科
■尚絅高等学校	
■尚絅中学校	
■尚絅大学図書館本館・尚絅中学高等学校図書館	

J R ・ バス	J R 鹿児島本線 熊本駅下車 熊本都市バス第一環状線 大学病院方面まわり「尚絅校前」下車、徒歩1分 (逆まわりにご注意下さい)
市電	市電（健軍行）「九品寺交差点」下車、徒歩1分
タクシー	桜町熊本バスターミナルより10分

〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78

T E L 096-362-2011

F A X 096-363-2975

武蔵ヶ丘キャンパス



■尚絅大学短期大学部
短期大学部：幼児教育学科
■尚絅大学短期大学部附属こども園
■尚絅大学図書館分館

J R	J R 豊肥本線 「武蔵塚駅」 下車徒歩 20 分
バス	熊本桜町バスターミナル 17 番のりば 電鉄バス「C5」系統 (北熊本、菊池、武蔵ヶ丘、光の森方面行き) 「尚絅大学前」 下車徒歩 1 分
タクシー	熊本桜町バスターミナルより約 25 分

〒861-8538 熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北 2-8-1

T E L 096-338-8840

F A X 096-338-9301

(5) 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用（令和 3 年度）

学科名	学年	入学金	授業料	施設設備資金	初年度合計
文化コミュニケーション学科	1 年	220,000 円	670,000 円	220,000 円	1,110,000 円
	2 年	-	670,000 円	220,000 円	890,000 円
	3～4 年		620,000 円	220,000 円	840,000 円
文化言語学科	4 年	-	620,000 円	220,000 円	840,000 円
栄養科学科	1 年	220,000 円	750,000 円	320,000 円	1,290,000 円
	2 年		750,000 円	320,000 円	1,070,000 円
	3～4 年		700,000 円	320,000 円	1,020,000 円

※ 入学金は初年度のみ、納付となります。

※ 授業料、施設設備資金は年額であり、前期、後期に分納できます。

※ 各種免許、資格取得希望者の学外実習に要する費用、実験実習費、その他保険料（傷害、賠償責任）が別途必要です。

※ 既納の納付金等は、事由のいかんを問わず返却いたしませんのでご注意ください。

ただし、入学金を除く納付金は、入学する月の前月末日までに、文書（本学所定）で入学辞退による返還を求めた場合に限り返却します。

※ 一般選抜及び大学入学共通テスト利用型選抜ですでに入学手続きを済ませて、他の学部や学科をもう一度受験して合格した場合、入学金の振替ができます。

(6)教材購入費

本学においては、学生生活 4 年間の必要経費として、授業料、施設設備資金、実験実習費及び傷害保険料等の雑費の他、教科書等の教材費が必要である。その額は、授業内容等により年度によって必要額が異なってくるが、4 年間でおよそ以下のとおり見込まれる。

現代文化学部・文化言語学部・・・・・・約 20 万円程度

生活科学部・・・・・・・・約 30 万円程度

(7) [校舎等の耐震化率](#)

(8) [寄附行為](#)

(9) [役員名簿](#)

(10)外部資金獲得状況

外部資金獲得状況

令和 2 年度 外部資金の獲得状況

科学研究費助成事業 新規採択件数 4 件 12,870 千円

2. 修学上の情報等

(1) 教員組織、各教員が有する学位及び業績

[現代文化学部（ホームページ／教員紹介）](#)

[文化言語学部（ホームページ／教員紹介）](#)

[生活科学部（ホームページ／教員紹介）](#)

(2) 3つのポリシー

① 入学者に関する学生受入方針（アドミッションポリシー）

<現代文化学部>

尚絅大学は、尚絅学園の建学の精神及び大学の理念を理解し尊重する学生を求めます。

現代文化学部は、高度な日本語運用能力、多様な文化と社会に関する知識を身に付けた上で、高度情報化とグローバル化が進行する日本社会に貢献できる人材を育成することを目指し、次のような学生を求めています。

- (1) 日本の表現文化に興味がある人
- (2) 現代的な情報技術に基づいたメディアコミュニケーションに興味がある人
- (3) 国際交流や、国内外の様々な地域文化に関心がある人
- (4) 観光を通じて、地域社会や地域文化の発展に貢献したい人

入学を希望する人には、高等学校等において、国語・英語を中心とした基礎学力（知識・思考力・判断力・表現力）を習得し、高等学校等における活動などを通じて主体的かつ協働して物事に取り組む力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、演習等において、問題解決力およびアクティブ・ラーニングにおいて様々な課題を教員・他の学生と協働して探求・解決する力を本格的に育成するために必要となります。

入学者の選抜方法として、一般選抜、大学入学共通テスト利用型選抜、学校推薦型選抜、総合型選抜、編入学選抜、社会人選抜及び外国人留学生選抜を採用し、上記のような能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

・一般選抜では、国語、英語の記述式試験、調査書及び面接において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

なお、英語について、4技能を測る外部検定試験を利用する場合は、記述式試験の得点と比較し、高得点の方を採用します。

・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語の記述式試験及び調査書において知識・技能、思考力・判断力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・学校推薦型選抜では、小論文、調査書、推薦書及び面接において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・総合型選抜では、体験授業、面接、自己申告書等及び調査書において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・総合型選抜（自己推薦型）では、自己推薦書、面接及び調査書等において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・編入学選抜では、小論文及び面接において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・社会人選抜では、2年以上の社会人経験を有する方を対象に、小論文及び面接において知識・技

能、思考力・判断力・表現力及び基礎学力と共に社会人としての経験や実績に基づき多様な人々と主体的に協働して学ぶ力を総合的に評価し選抜します。

・外国人留学生選抜では、作文及び面接において基礎的な日本語能力及び日本で学習する意欲等を総合的に評価します。

<生活科学部>

尚絅大学は、尚絅学園の建学の精神及び大学の理念を理解し尊重する学生を求めます。

生活科学部は、健康の保持・増進や疾病の予防・治療を目的にした栄養指導、医療・福祉・教育分野での栄養管理、食育、食品の研究・開発などに強い関心を持ち、食・栄養の専門家としての高度な知識・技能の修得と、管理栄養士の国家資格取得を目指して努力し、優れた見識・国際感覚・豊かな人間性を身につけたいという意欲が強い学生を求めます。

具体的には、次のような意欲にあふれた人を求めます。

- (1) 管理栄養士養成カリキュラムの履修に必要な基礎学力を持ち、主体的に勉学を遂行できる人
- (2) 管理栄養士として社会に貢献しようと考えている人
- (3) 食と健康に関する現代的テーマに、強い探究心をもって取り組もうと考えている人
- (4) 生物学・化学などの生命科学に興味があり、専門的な真理を探究する意欲を持つ人
- (5) 他の専門職との連携やチームワークに必要な協調性を持つ人

入学を希望する人には、高等学校等において、生物、化学、物理、数学など、生命科学を学ぶための基礎知識や思考力・判断力を習得し、主体的に他者とのコミュニケーションを円滑に行うために国語や英語の基礎学力を身につけていることを望みます。これらに関する能力は、入学後の講義、実験・実習・演習等において、他の学生と協働して様々な課題を探索・解決する能力を育成するために必要となります。

入学者の選抜方法として、一般選抜、大学入学共通テスト利用型選抜、学校推薦型選抜、編入学選抜及び社会人選抜を採用し、上記のような能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価します。

・一般選抜では、国語、英語、生物基礎、化学基礎から 2 科目の記述式試験及び調査書において知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・大学入学共通テスト利用型選抜では、国語、外国語、数学、理科からの選択及び調査書において知識・技能、思考力・判断力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・学校推薦型選抜では、口頭試問、調査書及び推薦書において一般教養、生物基礎及び化学基礎の分野から知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・編入学選抜では、学力試験及び面接において、栄養士養成専門教育に関する分野から、知識・技能、思考力・判断力・表現力及び主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度等を総合的に評価し選抜します。

・社会人選抜では、2 年以上の社会人経験を有する方を対象に、小論文及び口頭試問において思考力・判断力・表現力及び基礎学力・技能と共に社会人としての経験と実績に基づき主体的かつ多様な人々と協働して学ぶ態度を総合的に評価し選抜します。

②教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

<現代文化学部>

現代文化学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマ・ポリシーで示す能力を修得させるため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力をつけるための科目を配置します。
- (2) 幅広く教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置し、高度な専門的知識・技能を育成するために、専門教育科目を専門導入科目から段階的、系統的に展開します。
- (3) 日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力の修得のために、教養教育科目で日本語運用能力養成領域および多文化コミュニケーション領域と、専門教育科目で実践外国語科目を配置します。
- (4) 日本および東アジアの社会と文化に関する諸問題を様々な角度から調査・分析する能力を修得するために、教養教育科目に調査分析基礎領域、専門教育科目に「文芸文化」、「情報メディア文化」、「日本・東アジア社会文化」、「観光文化」の4領域を配置し、4領域から2つを学ぶ構成とします。
- (5) ビジネスや行政の場で協働して問題が解決できる能力を育成するために、専門教育科目で共通実践科目を配置します。
- (6) 文化を様々な角度から分析する視座を確立する領域として、文芸文化領域、日本・東アジア社会文化領域、観光文化領域、そして情報メディアおよび現代的なサブカルチャーに関する分析能力を育成する情報メディア文化領域の4つの領域を置きます。
- (7) 文化理解の視座を確立することを目的とする4領域に関しては、卒業後の進路に応じて、2つの領域を組み合わせた形で学修を提供すべくデザインします。
- (8) 卒業研究に関しては、各領域から1名ずつの指導教員を配置し、多面的な見方から文化を分析する能力を育成します。

<文化言語学部>

文化言語学部は、学則に掲げる目的に基づき、文化と言語を重視した教育と研究を行い、現代社会に有為な人材の育成を目指して、教養教育と専門教育の連携及び資格取得の科目を系統的に展開できるように、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 教養教育科目は、幅広く深い教養を身につけるために、教養基礎・文化・社会・科学・体育・外国語の6つの科目領域を設け、現代の社会人として求められる多様な基礎知識を修得できるカリキュラムを設定します。また、低年次からキャリアデザイン科目を充実させ、学生一人一人が、女性として自らの夢を実現する力を身につけられるようサポートします。
- (2) 教養教育科目は、主に1,2年次に履修し、より高度な教育内容(教養教育科目、専門教育科目)を段階的に学修できるように設定します。教養科目でも1年次からゼミナール形式の教育を行うことで、大学生としての基礎力やコミュニケーション力を培うとともに、専門教育の学修に必要なアカデミックスキルの修得を目指します。
- (3) 専門教育科目は、日本語日本文学、現代コミュニケーションの各コースで専門分野について体系的に深く学べるように科目を編成します。各コースの特性や学修目標に応じて、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」の区別を設け、専門学修の成果として、全員が卒業研究に取り組むことができるように設定します。
- (4) 専門での学修に加え、教職課程(中学国語・高校国語・高校書道)、司書課程(司書・司書教諭)、

日本語教員養成講座を設け、また、秘書士・上級秘書士・情報処理士の資格が取得できる科目を設定し、社会の即戦力となるための力を養います。コース別に以下のようなカリキュラムを編成します。

【日本語日本文学コース】

- (1) 専門の日本語学、日本語文学、漢文学だけでなく、書道をはじめとする日本の伝統・文化を理解する力を身につける科目や、学際的で幅広い視野をもって履修できる科目を設定します。
- (2) 日本語学、日本語文学、漢文学、日本語教育について概論や文学史のような基礎的科目を踏まえたうえで、専門的な科目（講義・講読・演習）への履修を配置します。
- (3) 各講義・演習等を踏まえたうえで、深く学修する分野を選択して「卒業論文」の作成に至る構成となっています。卒業論文指導も毎週の指導に加え、中間発表会（複数回）、卒業論文要旨発表会を行い、後輩にも参考になるような指導を行います。
- (4) 学科の専門教育と連動する形で、教員免許状（中学国語、高校国語、高校書道）を修得する教職課程や、日本語教員養成講座のほか、図書館司書、司書教諭、秘書士、情報処理士といった資格取得のための科目群を設置します。

【現代コミュニケーションコース】

- (1) 実践的なコミュニケーション力を身につけるために、4つの領域「社会理解」「サービスラーニング」「情報・ビジネス」「日本語・外国語」に重点を置きます。
- (2) 現代の社会や異文化について理解し専門的知識を習得するために「社会理解」領域の科目を配置するとともに、「サービスラーニング」領域の科目で体験型授業を採り入れ、社会における課題を自ら発見し解決に取り組む能力を段階的に培います。
- (3) 「情報・ビジネス」領域の科目では、現代社会に対応できるスキルや専門的知識を修得するばかりでなく、ビジネス実務士や上級秘書士、上級情報処理士などの資格取得に繋がります。
- (4) 社会で求められている日本語表現力を高めるとともに、外国語（英語・中国語・韓国語）の基礎を固め、さらに高度な実践的運用力を修得することを到達目標とし、「日本語・外国語」領域で科目を体系的に配置します。

<生活科学部>

生活科学部は、学則に掲げる目的に基づき、ディプロマ・ポリシーで示す能力を修得させるため、以下のような方針でカリキュラムを編成します。

- (1) 大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけるための科目を配置します。
- (2) 幅広く深い教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置します。
- (3) 栄養士養成課程及び管理栄養士養成課程として必要な科目を中核とし、管理栄養士に必要な高度な専門的知識・技能を育成するために、専門教育科目（専門基礎分野及び専門分野）を段階的、系統的に展開します。また、適切な態度・倫理観、さらにそれらを背景としたコミュニケーション力を育成するために、実験・実習・演習を体系的に配置します。
- (4) 栄養士・管理栄養士としての創造的思考力・判断力、社会性、協調性を育成するために、専門的知識と技能の統合的・実践的学修の場として、「管理栄養士総合演習」「臨地実習」「卒業研究」を配置します。

- (5) 栄養教諭（一種）が備えるべき教育学的見識と十分な指導・教育力を育成するために、教養教育および専門教育と連動するかたちで、教育職員免許状取得を目指す教職課程を配置します。
- (6) 食品衛生監視員（任用資格）、食品衛生管理者（任用資格）、その他の資格を取得するための科目を配置します。

③学位授与の方針（ディプロマポリシー）

<現代文化学部>

現代文化学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士（文学）」の学位を授与します。

- (1) 日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。
- (2) 伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。
- (3) 高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。
- (4) 上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。

<文化言語学部>

文化言語学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、コース別に以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士（文学）」の学位を授与します。

【日本語日本文学コース】

- (1) 日本文学、日本文化、書道文化、日本語・日本語教育に関する幅広い知識を身につけ、多文化共生が進む地域社会に貢献できる。
- (2) 日本文学、日本文化、書道文化、日本語・日本語教育に関する専門的な学修を踏まえて、課題を発見し、解決できる。
- (3) 演習や卒業論文執筆を通して、課題解決能力と高度な日本語コミュニケーション力を身につけ、広く社会に貢献できる。

【現代コミュニケーションコース】

- (1) 幅広い教養とグローバル社会に対応できる日本・諸外国の社会・文化・歴史等に関する専門的知識を有し、コミュニケーション力と人間力豊かなリーダーシップを発揮して社会に貢献できる。
- (2) 地域や国際社会の抱える諸問題を発見し、グローバル・グローバル・ローカルな視点で的確に分析して解決する方法を提案し、問題解決に参画できる。
- (3) 外国語（英語・中国語・韓国語）の高度な運用の能力を備え、それぞれの言語圏に関する研究と国際交流を通じて幅広い異文化理解力を身につけ、国際的視野に立って活躍できる。

<生活科学部>

生活科学部は、建学の精神のもと、教育研究の目的に則り、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定し、「学士（栄養学）」の学位を授与します。

- (1) 幅広い社会的関心と教養を有するとともに、豊かな人間性に基づく優れたコミュニケーション

力を身につけている。

- (2) 食に関する専門的知識を基盤とした実践的技能を有するとともに、科学的に情報を分析・活用できる能力を身につけている。
- (3) 栄養・食品・医療・教育等に関する先進的な専門的知識を修得し、専門職としての役割を理解し、社会的責任感と倫理観を備え、自主的自律的に研鑽に努めつつ社会に貢献しようとする態度を備えている。
- (4) 積み上げてきた体系的知識・技能及び最新の知見を総合的に捉え、保健・医療・福祉・食品・教育・行政等の専門分野の課題に対して的確な考察・判断を行う能力をもち、専門職として他職種との連携のもと、実践に移す能力を身につけている。

(3) 入学定員、入学者数、収容定員、在籍者数

令和3年度の学生数の状況（令和3年5月1日現在）

（単位 人）

学部・学科名	入学定員	入学者数	収容定員	在籍者数
現代文化学部 文化コミュニケーション学科	75	55	300	169
文化言語学部 文化言語学科	募集停止	募集停止	-	2
生活科学部 栄養科学科	70	68	300	314
(生活科学部3年次編入学)	10	6		
計	155	129	600	485

(4) 入学者数、退学者数、除籍者数、中退者数、中退率及び留年者数の推移（単位 人）

年度	学部	入学者数	在籍者数 (A)	退学者数 (B)	除籍者数 (C)	中退率(%) (B)+(C) / (A)	留年者数
H30 年度	現代文化学部	40	40	2	0	5	0
	文化言語学部	募集停止	131	0	0	0	4
	生活科学部	80	323	8	0	2.5	5
	計	120	494	10	0	2.0	9
R1 年度	現代文化学部	38	75	6	0	8.0	2
	文化言語学部	募集停止	89	2	0	2.2	7
	生活科学部	84	326	3	1	1.2	2
	計	122	490	11	1	2.4	11
R2 年度	現代文化学部	45	115	2	0	1.7	1
	文化言語学部	募集停止	40	2	2	10	4
	生活科学部	83	333	10	0	3	7
	計	128	488	14	2	3.3	12

(6) 入学者（出身校県別）※編入除く

都道府県	現代文化学部	生活科学部
熊本県	50	67
福岡県	1	1
鹿児島県	2	0
愛知県	1	0
計	54	68

(5) 社会人学生数、留学生数及び海外派遣学生数

(令和3年5月1日現在)

(単位 人)

学部名	社会人学生数					留学生及び海外派遣学生数				
	1年	2年	3年	4年	計	1年	2年	3年	4年	計
現代文化学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
文化言語学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生活科学部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

備考 社会人学生数、留学生数は、それぞれ社会人入試、外国人留学生入試によって入学した学生数である。

※詳細参照⇒<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/international>

(7) 卒業者数、就職希望者数、就職者数、就職率及び進学者数他

令和3年3月卒業生の進路先決定状況（令和3年5月1日現在）

(単位 人)

学部・学科名	卒業者数	就職希望者数	就職者数	就職率	進学者数	その他 (就職を希望しない)
文化言語学部文化言語学科	34	27	26	96.3%	0	7
生活科学部栄養科学科	83	78	77	98.7%	0	5
計	117	105	103	98.1%	0	12

※詳細参照⇒<https://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/career/data>

(8) 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

令和3年度開講授業科目シラバス

[現代文化学部（シラバス）](#)

[文化言語学部（シラバス）](#)

[生活科学部（シラバス）](#)

(9) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準

①学修の成果に係る評価

令和3年度開講授業科目シラバス

[現代文化学部（シラバス）](#)

[文化言語学部（シラバス）](#)

[生活科学部（シラバス）](#)

②卒業の認定に当たっての基準（必修・選択科目別の必要単位修得数）

卒業に必要な最低修得単位数は、次のとおりとする。

(カリキュラム)

<現代文化学部>

主たる 領域	教養教育科目				専門教育科目				合計
	必修 科目	選択必修科目	選択科目	計	必修科目	選択必修科目	選択科目	計	
文芸 文化	22 科目 32 単位	多文化コミュニケーション 科目のうち中国語または韓国語を選択し、その言語のすべての科目 (6 科目 6 単位)	教養教育科目の 最低修得単位数 である 40 単位 から、必修及び 選択必修で修得 した単位を減じた単位以上	40 単位 以上	・ 3 科目 6 単位 ・ 卒業研究 6 単位	・ 専門導入科目から 8 単位以上 ・ 共通実践科目から 12 単位以上	・ 他領域の科目 から 10 単位以上	84 単位 以上	124 単位 以上
情報 メディア 文 化						主たる領域の科目から 20 単位以上 (その内、領域の選択必修科目から 8 単位以上) 取得する			
日本・ 東アジア社会 文化					・ 10 科目 20 単位 ・ 卒業研究 6 単位	・ 専門導入科目から 8 単位以上 ・ 共通実践科目から 12 単位以上	他領域の科目か ら 10 単位以上		
観光 文化									

＜文化言語学部＞

コース名	教養 教育 科目	専門教育科目						小計	合計
		必修科目	計	領域	選択必修科目	計	選択科目		
日本語日本文学	34 単位 以上	・ 23 科目 46 単位 ・ 卒業研究 6 単位	52 単位	日本文学	3 科目 6 単位以上	6 科目 12 単位 以上	専門教育 科目の最 低修得単 位である 90 単位 から、必 修及び選 択必修で 修得した 単位を減 じた単位 以上	90 単位 以上	124 単位 以上
現代 コミュニ ケーション		・ 15 科目 28 単位 ・ 卒業研究 6 単位	34 単位	社会理解	7 科目 14 単位以上	17 科目 34 単位 以上			
				サビースラーニング	3 科目 6 単位以上				
				情報・ビジネス	2 科目 4 単位以上				
				日本文学及び 日本語学・ 日本語教育	5 科目 10 単位以上				

＜生活科学部＞

区分		必修科目	選択必修科目	選択科目		合計
教養教育科目		13	2	9	17	124
専門教育科目	専門基礎分野	40	2			
	専門分野	41				

③取得可能学位

＜現代文化学部＞

学士（文学）

＜文化言語学部＞

学士（文学）

＜生活科学部＞

学士（栄養学）

④学位授与数

卒業年月	学部名	卒業者数 (学位授与数)
H31 . 3	文化言語学部	42
	生活科学部	80
	計	122
R2 . 3	文化言語学部	47
	生活科学部	82
	計	129
R3 . 3	文化言語学部	34
	生活科学部	83
	計	117

(10) 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

①修学に係る支援

学修支援センター

本学では平成 29 年（2017）年 10 月に学修支援センターを設置し、両キャンパスにそれぞれスタディールームを開設しており、高校までの学習内容の復習や授業内容の補習の他、個別の学習・履修相談、資格取得等の幅広い相談にも応えている。

基礎セミナー

現代文化学部では、1 年前期に全員必修で「基礎セミナー」の授業を開設している。本授業は、大学に入学したばかりの学生が大学生活をよりスムーズに始められるようにサポートし、建学の精神や本学の歴史から始まり、授業履修の方法、学生生活をよりよく送るための基礎知識の習得、社会人基礎力の測定などを行う。また、専門 4 領域の学習内容の紹介を行い、専門分野の学習の意識付けという内容も含めている。

生活科学部でも、1 年前期に全員必修で「基礎セミナー」の授業を開設している。本授業は、大学での学びへの導入を意図して開講されたものであり、学生が初年次に円滑な大学生活ができるような基本的な生活や学習のスキルを身につけさせ、大学への学びに対する興味を喚起し、学修意欲の向上に取り組んでいる。

クラス担任制

各学年の学部・学科（コース）単位で担任制を取り入れ、履修相談、学生生活相談、就職・進路相談等に対応している。出欠状況、単位修得状況等を教務課から各担任に適宜知らせ、担任は年度初めの学生との懇談のほか、個人面談でそれぞれの学生の状況を把握し指導・支援するように努めている。また、クラス担任は 3 年次から就職指導など進路指導にも携わり、学生と密な信頼関係を築くようにしている。

オフィスアワー

全専任教員がオフィスアワー（現代文化学部、文化言語学部 2 回／週、生活科学部 1 回／週）を設けて学生の質問や相談に応じる体制を実施している。

障がいをもった学生の修学の支援

本学では平成 28(2016) 年 4 月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する規程」を制定し、教職員が適切に対応するために必要な事項を定め、学修支援体制を整備している。

障がいの程度は、学生ひとり一人に差があるので、学生支援委員やカウンセラー（臨床心理士、キャンパスソーシャルワーカー）が本人及び保護者から配慮すべき事項を確認し、その事項を全教職員に周知徹底することによって、学修支援体制を確立している。

学習スペースの確保

キャンパス内で学生が快適に学べる環境を提供するため、各キャンパス図書館の閲覧室を学習スペースとして開放している。また、学習スペースの利便性を高めるため、本館には個人学習用のキャレルやグループ学習室を新設し、分館ではグループ学習用のスペースと個人学習用のスペースを分離するという工夫を行っている。

臨地実習指導

生活科学部では、管理栄養士養成課程カリキュラムのため、3 年次及び 4 年次は学外実習が義務づけられている。実習期間中、学生は少人数で各学校や施設に配属される。担当教員は実習先の担当者と綿密に相談し、充実した学修成果が得られるように実習の改善に努めている。実習ごとに実習終了時に教員と学生は学内で実習報告と反省会を開き、きめ細やかな指導を行っている。

②進路選択に係る支援

本学では、入学年度から年 2 回のキャリアガイダンスを実施して、学生の進路選択を早い段階からサポートしている。また、各学部学科の正課のキャリア教育、正課外の就職指導の時間においても、進路選択の指導を行っている。進学も含めて進路選択についてきめ細やかなカウンセリングを教職員で実施している。2017 年（平成 29 年）から就職・進路支援センターを設置し、支援体制を強化している。

③心身の健康等に係る支援

学生の健康面については、学生支援課で毎年度初めに全学生を対象に健康診断を行っている。日々の健康相談は、保健室の養護教諭により行い、毎年「学生疲労蓄積度調査」を実施し、その結果を学生個人に知らせるとともに、結果によっては保健室に相談に行くよう勧めている。

また、心的支援は養護教諭とカウンセラー（臨床心理士、キャンパスソーシャルワーカー（非常勤））により行われている。障がいを有する学生に対しては、学生支援委員会部会長、学生支援課長あるいはカウンセラー（臨床心理士、キャンパスソーシャルワーカー）が定期的に面談を行い、状況を把握している。さらにその他の学生の相談には、各学科の学生支援委員と学生支援課職員がクラス担任と連携を取り、さらにオフィスアワーを活用して細やかに対応している。

④その他学生支援の状況

本学では学生サービス、厚生補導のための組織として学生支援委員会及び各キャンパスに部会を設置し、学生支援課との連携により、学生会行事関係、奨学金関係、健康管理関係、その他福利厚生関係の業務を行っている。

学生に対する経済的な支援として、日本学生支援機構奨学金をはじめとして、地方公共団体や民間団体の奨学金の募集を行い、手続きを行っている。日本学生支援機構奨学金については、年度初めのオリエンテーションで奨学金制度を詳細に説明し応募者を募っている。家庭の事情等の個人情報に十分に配慮しながら、クラス担任による個別面談と学生支援課の担当者による相談や手続きの指導を行っている。最終的な応募者は学生支援キャンパス部会で承認を受け申請する。予約奨学生や入学後の新規採用者は年々増加しており、家計の急変により2年次や3年次で新規応募する学生も増加している。また、本学は、「大学等における修学支援に関する法律」（令和元年法律第8号）に基づき、文部科学大臣より、「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として認定されており、支援対象の要件を満たす学生に対して、給付型奨学金の支給や、授業料等の減免を行っている。地方公共団体や民間団体の奨学金については、それぞれの募集案内を掲示し、希望者にそれぞれの制度を説明して応募させている。

また、学生への経済的な援助策として、平成26年度に本学独自の授業料免除制度を制定した。この制度は、学生としての修学態度が標準に達していると認められる学生にあって、学資負担者が死亡もしくは被災など不慮の事由により授業料の納付が著しく困難であると認められる者又はこれらに準ずる場合で理事長が相当と認める者を対象とし、各学期分の授業料についてその全額又は一部を免除する制度である。

さらに、平成25年度には寮費免除制度を制定した。この制度は、入寮希望の学生又は入寮している学生が経済的理由等で修学が困難な場合、寮費の全額を免除する制度である。加えて、同年度に姉妹入学金減免制度も制定した。この制度は、本学に入学する4月の時点で本学に姉妹が在学している場合、入学金の半額を免除する制度である。

また、本学では学生サービスに対する学生の意見や要望を把握するため毎年「学生生活に関する実態調査」のアンケートを実施して家庭、経済、学習環境、課外活動、ボランティアなどの実態と問題点を調査している。アンケート結果は学生支援委員会で各学部・学科別に集計・評価され各学部・学科の教員に配布し、学生支援委員並びに各クラス担任により改善・対応策をとる仕組みになっている。さらに、学内に学生支援委員会による「意見箱」を設置し、施設・設備の学習環境のみならず、学生生活全般に関する学生の様々な意見や要望を汲み上げるようにしている。

⑤海外の協定相手校

本学は、慈済大学（台湾）と仁徳大学校（韓国）、高雄大学（台湾）、上海杉達学院（中国）、Southern University College（マレーシア）、済州大学校（韓国）の6校と協定を結んでいる。

慈済大学とは、2011年に本学文化言語学部と慈済大学東方語文学系との間で学部間交流協定を締結し、2014年大学間交流協定締結に発展している。

慈済大学は台湾東部の花蓮市に位置しており、医学院・生命科学院・人文社会学院を併設する総合大学である。特に、長年交流している東方語文学系は、日本語・日本文学専攻と中国文学専攻を有しており、両専攻とも日本語が必須に設定され、日本で学位を取得した教員も多く、日本との関係が深い学部であり、安心して留学することができる。

仁徳大学校とは、2014年本学文化言語学部学生が仁徳大学校附属「国際教育センター（韓国語コ

ース)」に短期語学研修を実施するなどの学生交流を開始し、同年大学間交流協定を締結している。

仁徳大学校は、観光系やメディア系など 16 学科、学生数約 7000 名のソウル市北部にある都市型大学である。実務型教育が特徴で、韓国文教部から 4 年連続で「教育力量強化優秀大学」に選定されている。海外の協定校との交流も盛んで、日本の他に中国・台湾・モンゴル・ロシアなどからも多数の留学生が在籍している。

高雄大学とは、2019 年 2 月に大学間交流協定を締結している。

高雄大学は、学生数約 5200 人、2000 年創設の新しい国立大学で、人文社会系（日本語専攻含む）、法学系、管理学系、理学系、工学系等を有す総合大学である。大学が位置する高雄市は熊本県・熊本市の姉妹都市であり、県内自治体、経済界の交流が盛んな地域である。

上海杉達学院とは、2019 年に大学間交流協定を締結している。

上海杉達学院は、学生数約 1 万人、上海市の浦東新区にある中国の私立大学で 1992 年に創設された中国では比較的新しい大学です。文系を中心とした総合大学で、外国語系（日本語専攻含む）、観光・旅行系、経済系、マネジメント系、ファッション系など実学系の学科が多い大学である。

Southern University College とは、2019 年に大学間交流協定を締結している。

Southern University College は、学生数約 2,600 人、マレーシアの第二の都市ジョホールバルに位置する（シンガポールの対岸）私立大学である。1990 年設立の Southern College（南方学院）を経て、2012 年 Southern University College となりました。現在、人文・社会系、商業管理学系、芸術・デザイン系、中国医学・薬学系等 5 学部を有する、マレーシア初の華人系の大学で、中国系の学生が多いが、中国文学以外の授業の多くは英語で行われている。

済州大学校とは、令和 2 年に大学間交流協定を締結している。

済州大学校は、1951 年済州大学の母体として創設された。1962 年には国立大学となり、12 学部 59 学科、9 つの大学院を持つ総合大学である。さらに、2005 年には国際交流本部が設置され、海外の大学などとの学生プログラム（交換留学、International Summer School、短期韓国語韓国研修プログラム）を実施している。外国人留学生へのサポートも厚く、安心して留学することができる大学である。

⑥社会貢献活動

本学では、地域社会の生涯学習活動に貢献することを目的として、1990 年（平成 2 年）から尚絅大学短期大学部と共同で、公開講座を実施している。例年 10 講座程度開講している。本年は新型コロナウイルス感染拡大のため中止。一昨年までの第 30 回の開催で延べ 1 万 8 千名余の受講者があり、好評を博している。

また、現代文化学部兼文化言語学部主催の公開講座を 10 月、11 月の土曜日を利用して実施しているが、好評を得て、一昨年までの第 12 回の開催で延べ 3,340 名余が受講した。本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため中止した。

(11) 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報

令和3年度開講授業科目シラバス

[現代文化学部（シラバス）](#)

[文化言語学部（シラバス）](#)

[生活科学部（シラバス）](#)

令和3年度カリキュラム

[現代文化学部（ホームページ／各コースカリキュラム）](#)

[文化言語学部（ホームページ／各コースカリキュラム）](#)

[生活科学部（ホームページ／カリキュラム）](#)

3. 財務情報

- (1) [令和2年度財産目録](#)
- (2) [令和2年度貸借対照表](#)
- (3) [令和2年度資金収支計算書](#)
- (4) [令和2年度事業活動収支計算書](#)
- (5) [令和2年度事業報告書](#)
- (6) [監査報告書（令和2年度決算）](#)
- (7) [令和2年度決算の概要報告](#)
- (8) [令和3年度学生生徒数の状況（令和3年5月1日現在）](#)